

平成 23 年度ヒラメ稚魚分布密度調査結果（日本海）について

当研究所では天然ヒラメの稚魚分布密度調査を昭和55年から行っており、今年は7月12日、8月9日、8月30日に桁網（水工研Ⅱ型）を用いて日本海のつがる市沖8点で調査を行いました（図1）。ヒラメの分布密度は桁網効率を0.28とすると8～1,573尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました（表1）。採捕したヒラメの全長組成は7月12日に水深5mで20mm、水深10mで50～60mm主体、8月9日に水深5mで40mm、水深10mで30mm主体、8月30日に40～50mm主体でした（図2）。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、今年は713ととても高い水準でした（図3）。これまでの調査結果から、日本海では着底指数と翌年1歳魚の資源尾数との間に正の相関が見られることから、2年後に漁獲対象となる本年生まれの資源はとても高い水準と考えられます。

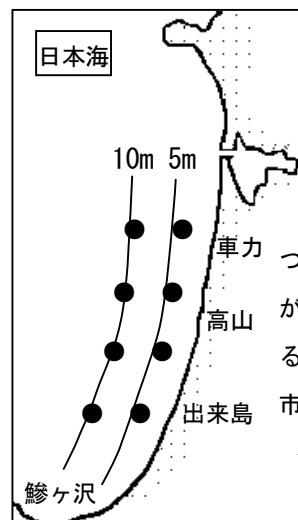


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海		(尾/1,000m <sup>2</sup> )								5m	10m
調査月日/調査点	水深	出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	平均	平均
7月12日	5m	56	30	21	9	14	16	17	8	29	14
8月9日	5m	1,573	458	421	402	159	689	602	363	713	453
8月30日	5m	502	443	632	448	94	394	352	316	506	289

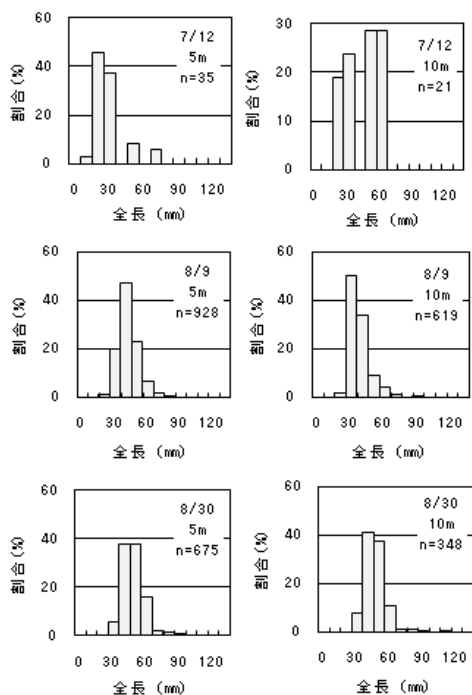


図2 採捕したヒラメの全長組成

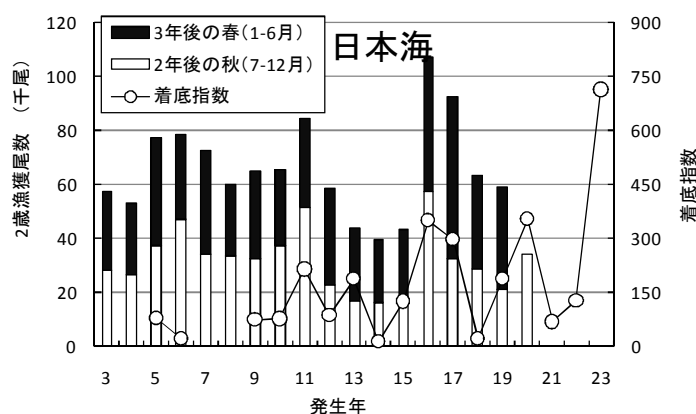


図3 日本海のヒラメ着底指数の推移